Meiji University Library
署名は検証されていません。
電子署名者：Meiji University Library
DN: cn=Meiji University Library, c=JP
日付：2003.11.17 16:57:43 +09'00'

図書館　2000年度の動き

はじめに

20世紀最後の年である2000年度は，本学図書館にとって大きな飛躍の年となった。学内外の大きな期待の中で新・中央図書館が2001年3月16日にオープンした。それに先立って，3月14日には，内外の関係者を招待しての，「新・中央図書館開館セレモニー」が盛大に挙行された。本学駿河台A地区施設整備計画は，リバティタワーの建設に続き，新・中央図書館の建設・オープンをもって終了したのである。本学図書館の21世紀の発展に向けた教育環境が整えられたと言える。

図書館の営みは，大学における学習・研究の中核的な機関として図書や雑誌などの資料を選び，収集し，それらを体系的に整理し利用に供する。そしてそれらの資料を後世の利用のために適切に保存することである。近年は，図書・雑誌といった印刷媒体の資料以外に，デジタル化されたいわゆるマルチメディア資料が増加しているが，基本的な営みは変わっていないし今後とも継続するであろうと思われる。

本学図書館は，三キャンパスに図書館がある。駿河台の中央図書館には，管理部署としての図書館庶務課，整理課，利用者サービス部署としての閲覧課，文献情報課があり，和泉・生田キャンパスに利用者サービス部署として和泉図書館事務室，生田図書館事務室がある。一方，事務部長会を中心に事務機構改革に伴う事務組織再編の準備討議が進められ，2001年3月28日付で中央図書館のサービス部門(閲覧課，文献情報課)が統合され「総合サービス課」となり，和泉・生田図書館事務室名が変更され，それぞれ「和泉図書課」，「生田図書課」となった。新・中央図書館の開館と21世紀の幕開けを機に，新しいサービス体制で図書館を運用することとなった。

図書館は，図書館活動の基本的なものとして，利用者にとって有用な資料を揃え，利用者に良質なサービスを提供するという本来的な業務を行い，図書館の質の向上に専心している。

以下に本学図書館の2000年度における諸活動を振り返ることにより，次年度以降の図書館運営の礎としたい。

新図書館建設から開館に向けての動き

駿河台A地区総合施設整備計画第二期工事としての新・中央図書館建築は，2000年9月30日に竣工した。その後，ネットワークの敷設，各種情報機器の設置，書架や閲覧机の搬入・据付を行い，それが終了すると図書の搬入・書架の整備作業など矢継ぎ早に新・中央図書館オープンに向けて作業が続いた。

図書館員総出の開館準備作業が続き，努力いただいた結果，2000年3月14日の開館記念セレモニー，3月16日にオープンを向かえることができた。

この間，図書館のレイアウト，運営方法等々の検討は，「新図書館総合検討委員会」が行ってきた。「新図書館総合検討委員会」は，生田保存書庫の建築計画から5年余に渡り百数十回に及ぶ会議を重ね，一連の図書館建設計画を推進してきた。

私立大学図書館協会会長校2年目の軌跡

1999年4月から，全国420校の私立大学図書館が加盟する，私立大学図書館協会会長校に就任し，2000年度は2年目の年であった。

8月には，専修大学（生田校舎）を会場に総会・研究大会が行われたが，三枝館長を先頭に予定通り成功裡に終了することができた。任期は2001年3月までであったが，20世紀から21世紀への架け橋となるべく，協会を代表して活動を行ってきた。会長校就任は1983･84年以来の大事業であったが，大過なく終了できたことを報告する。

海外図書館との協力

1999年度に，韓国翰林（ハンリン）大学校日本学研究所図書館の，日本語図書の整理支援の第一次調査訪問を行ったが，2000年6月に2名の館員が2週間にわたり第二次訪問をした。この訪問では，図書館システムの開発・適用と目録作成スキルの教育を行った。二次にわたる訪問支援により，翰林大学校日本学研究所図書館のシステム化と目録データ入力の体勢が整えることができた。

更に2000年度末には，協定校であるラオス国立大学経済経営学部図書館設立支援の要請が（財）国際協力事業団を通してあり，これに対応することを決定した。図書館員を派遣して図書館創りのために一から支援してほしいという内容であり，図書館では実情調査（第1次）と具体的支援（第2次）に分けて派遣することにした。第1次派遣者2名を2001年3月22日から2週間ラオスに派遣した。第2次派遣は2001年4月以降の予定である。

教員による学習用図書選書委員会のスタート

学習用図書の選書体制は，館員による委員会方式により行われているが，2000年度から「教員による学習用図書委員会」は，各学部・短大図書委員のもとに活動を開始した。設置の趣旨は，図書館の教育活動の一環として位置付け，

1)学生の学習を促進し，教育効果を高めるために，学習用基本図書の充実を図る。

2)学生の読書離れを止める。

とした。

委員会は，駿河台キャンパスと，生田キャンパスにおいては各学部ごとにおき，和泉キャンパスは学部横断的に置くこととした。委員会は，各学部の図書委員を委員長とし，委員長が推薦した各学部・短大の若干名の委員(教員)で構成するものである。

2000年度は，制度の趣旨が行き渡らなかったこともあり活発な動きではなかったが，学習用図書の充実を教員の目から見て豊かにしていくことは重要なことであるので，今後趣旨を生かした活動が期待される。

学部間共通総合講座「図書館活用法」の開講

かねてから図書館として懸案であった，図書館利用教育及び情報リテラシー向上を目的とした講座が開講した。学部共通の講座で，取得した単位は卒業単位としても認めら

れる。半期2単位の講座で，前期は駿河台キャンパスで，後期は和泉キャンパス開講した。図書館は，この講座開講のための条件整備を行ってきたが，2000年4月から開講の運びとなり，履修者も多く好評であった。副館長がコーディネータとなり，図書館職員が部分的に講義を担当するという画期的な講座である。この講座は2001年度においても継続している。

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの協定

もはや単一の大学図書館では利用者の多様なニーズに応えられない，という図書館サービスに対する危機感や利用者サービスの向上，資料費の高騰に対する防衛策，あるいは大学の緊縮財政の中での自衛策として，都内の大学図書館との相互協力協定を模索していたが，2000年3月に「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」という形で協定書を締結した。

その後，協定の内容を実現すべく各担当者が討議を重ね，(1)所蔵資料目録の公開，(2)協定校の図書館の利用，(3)図書館職員の研修の実施などを行ってきた。更に，協定校の学生・教職員への図書の貸出しを実施すべく協議を重ね，実施プランが完成した。2001年度早々の実施が確認された。

これらの動きは，社会的にも注目され，朝日新聞，毎日新聞でも取り上げられた。

整理等業務のアウトソーシング「書店連携システム」のスタート

図書の発注・受入から整理・装備までの一連の業務を，書店を特定して資料の調達を含めたものにすることによって資料迅速提供や処理費用を安価なものにしようとするのが，いわゆる書店連携システムである。

2000年下期から，既存のシステムを使い，一部開発をし実施に踏み切った。当初システムの不具合や書店との連携体制がギクシャクして進捗がはかばかしくなかったが，12月ごろから順調に推移することができた。

そのほかの主な動き

(1)図書館講演会「著者と語る」の実施

読書離れした若者を主な対象者とし，著名な教員・作家等からその著作を題材に話を聞き，そのことによって，学生に図書と親しんでもらい，読書欲を喚起し，そして図書館に足を運んでもらおうという趣旨の講演会として，第3回を6月に和泉図書館で行った。

(2)紀要「図書の譜」第5号の発行

図書館紀要「図書の譜」第5号を発行した。「図書の譜」は，図書というものを根源から問いなおしてみよう，という意図で企画し，あわせて図書館資料の紹介，図書館員の資質の向上を計ろうというもので，第5号は「これからの大学図書館」という特集を組み，巻頭では「明治大学図書館と地域協力のありかた」の座談会を行った。

(3)司書・司書課程の設立支援

図書館として積年の夢であった司書課程の設置にあげて支援した結果，2000年4月に司書・司書教諭課程がスタートした。5月20日には，「司書課程開設記念講演会」を教職課程事務室と共同で開催した。三枝館長がシンポジュウムのシンポジストとして参加した。

(4)エルゼビア社雑誌価格問題の対応

エルゼビア・サイエンス社発行の不当な雑誌価格設定に関して，本学図書館が音頭を取り，私立大学に呼びかけ「エルゼビア雑誌価格に関する緊急懇談会」を開催したが，その後この問題を私立大学図書館協会として取り組むこととし，エルゼビア社と交渉を続けている。

(5)アフリカ文庫イベント2000「タンザニアの伝統音楽」

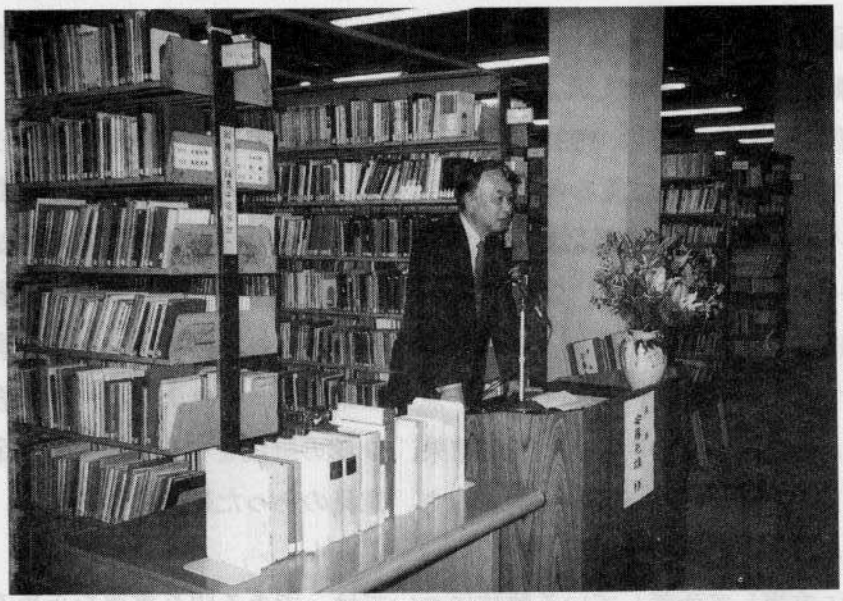
本学の特色あるコレクションとして「アフリカ文庫」があるが，「アフリカ文庫選定委員会」の発議で20周年アフリカ文庫記念イベントを行った。タンザニア人間国宝であるフクウェ・ザウォセとその仲間であるチビテ・グループによるタンザニアの伝統音楽の演奏会を10月24日にリバティホールで行った。当日は約350人の学生・教職員が会場を埋めた。

(6)図書館スタッフ研修会の実施（年2回）

図書館長，副館長をはじめとして，各種委員会委員長(図書委員：教員)と事務管理職，副参事職員からなる「図書館スタッフ」が毎年2回研修会を行っている。2000年度は，新図書館の運営問題，電子図書館機能，図書館活用法，著作権保護などのテーマで研修を行い一定の成果を収めた。

(7)図書館事務部合同研修会の実施

新・中央図書館の開館を目前にした3月13日に，全図書館構成員が一堂に会して研修会を行った。この日は，館長・副館長も出席していただき，「新・中央図書館の運用について」というテーマで合同研修を行った。



和泉図書館講演会風景